



みんなの家 マネージャー もうり たすく 毛利翼

みんなの家のマネージャーを務める毛利翼さんは、2012年に社会福祉法人千寿会に入職しました。千寿会の「とりあえず、やってみなっせ」をモットーに挑戦を続ける毛利さんの姿を追います。

入社までの経緯について教えてください。

実は一度社会に出てから、大学の学位を取得するために、夜間大学の福祉課に通ってました。今思えば、真面目な学生だったとはいえ、卒業時に社会福祉士の資格に合格できませんでした。それでも「せっかく福祉の勉強をしたのだから」と、卒業論文のゼミの講師から勧められ、千寿会の面接を受け、入職に至りました。

最初は何の資格もない状態からのスタートでしたが、入職してから介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士の資格を取得できました。

資格取得のモチベーションはどこにありましたか。

実際に介助をしていくうちに、専門的な資格を取得し、きちんと理論を持って専門職として働きたいと思いました。そこで、入職3年目に介護福祉士を取得したのです。また、入職5年目になると、利用者様との関わり合いもさらに増え、ケアマネジャーの資格も必要だと感じました。同時期に入職した職員たちも同じように考えていたため、仲間たちの向上心に刺激されたことも、モチベーションの一つになったと思います。

ケアマネジャーとして1年ほど働くと、利用者様への支援の形も人によって千差万別。多職種連携が必要不可欠であり、関連する制度を熟知したいと考えるようになりました。そこで今度は、社会福祉士の資格にチャレンジし、合格。資格取得に至るまでの勉強によって、知識が増え、提案力がついたことは大きな糧となっています。

これまでに挫折した経験について、お聞かせいただけますか。

まだ入職して間もないころ、ある誤解から、利用者様のご家族様とトラブルに発展してしまいました。そのとき、上司から「正しいことをしたならば、大丈夫。自分を信じて」と声をかけていただき、救われた経験があります。それからは、何か問題が起きたとしても、利用者様と真摯に向き合い、こちらの思いもきちんとお伝えできるように心がけています。

千寿会の良さはどこにあるとお感じですか。

「とりあえず、やってみなっせ」の社風にあると思います。提案をすると、それが職員や利用者様のためになるなら「やってみなっせ」と、背中を押してもらえます。

あるとき、終末期の利用者様が自宅に帰りたいと希望し、ご家族様や医療機関の協力を得て、ご帰宅されました。そこで私たちも、小規模多機能型居宅介護事業所ならではのネットワークの良さを生かし、利用者様の希望に寄り添った介助をすることができました。

ご自宅に帰った利用者様の様子が気になる

ときは、上司に相談すれば、快く送り出してもらえます。ご自宅にいながら、馴染みの職員が訪問して、いつも通りの介助ができる。その安心感を利用者様に提供できるのは、みんなの家ならではの良さだと思います。

最後に、今後の目標をお聞かせください。

「地域ナンバーワンの施設を目指す」という目標を常に掲げています。利用者様に、「ここに来れば大丈夫」と安心してもらえる施設運営をしていきたい。そして、「あなたに出会えて良かった」と思ってもらえるようなスタッフを一人でも増やしたいと思っています。それには、職員にとっても働きやすい環境であることも重要です。急な変更があっても皆で快くカバーできる雰囲気をつくり、互いに支え合いながら働ける環境をより一層整えていきたいと思っています。

ご自身も理事長をはじめ、上司や先輩、そして切磋琢磨できる仲間を支えられながら、成長してきたという毛利さん。ケアマネジャーは日々学びの連続とのこと。これからも、利用者様のために最善の提案ができるよう、挑戦を続けていきます。



我が施設が誇る!

元気な挨拶No.1スタッフ

私たちの職場には、多くの明るく元気な職員がいます。そのなかで一際輝く存在を選出しました。吉田さんが日々心がけている挨拶とは、どのようなものなのでしょうか？それは、利用者様との信頼関係を築く姿勢にもつながっているようです。

No.1!



悠優かしまデイサービス
リーダー
よしだ こゆみ
吉田 瑚弓さん

No.1に選ばれた率直な感想

「まさか私が?!」

驚いたというのが正直な感想です。他にも明るく対応している職員はたくさんいます。なぜ私が選出されたのでしょうか(笑)よく考えてみると、**利用者様から「あなたの声を聞くと元気になる」と嬉しい言葉をいただくことがあります**。すると、近くにいた職員からも「本当に元気もらえるよね」と言われることも。私の仕事を見てくれている人がいるのだ、と実感しました。

No.1に結びついたところ

一人ひとりと目を合わせた挨拶

デイサービスは1日に約20人の利用者様が来所されます。業務が一段落したタイミングで必ず利用者様一人ひとりの目を見て挨拶することが私のモットーです。もし自宅に来客があれば、皆さんも目を見て挨拶して出迎えるのではないのでしょうか。その感覚と同じです。全員に向けて一言挨拶をするのではなく、しっかり目を合わせて個別に挨拶をしています。そうすることで、利用者様のいつもとは違った様子や**些細な異変に気づききっかけ**になることも。そういった意味でも、一人ひとりにしっかりと心を込めて挨拶することを心がけています。

今後も元気な挨拶を心がけるためには、**初心を忘れないことが大切!**

日々、同じことを繰り返していると慣れが出てきて、雑になる部分も出てきてしまうのではないのでしょうか。そうならないために、初心を忘れずにいたいと思っています。一人ひとりへの挨拶は、入社以来続けてきたこと。そこを軸として、今後も利用者様に気持ちよく過ごしてもらえようように努力していきます。

仕事で大切にしているポイント

挨拶を接点に話し相手になる

しっかりと目を見て挨拶をするだけでなく、**必ず立ち止まるように**しています。そうすることで、利用者様との会話が弾むこともありますが、忙しいときにはきちんとした対応ができません。そのときは、先に急ぎの業務を終わらせてから再度利用者様のところへ行きます。ご自宅では話し相手がおらず、ここで誰かと話をすることを楽しみにしている方もいますので、私が同じ立場であれば、最後まで話を聞いてもらえなかったら寂しくなります。常に意識しているのは、相手の気持ちになって考えること。
また、職員同士の場合は完全に立ち止まって「お疲れ様です」と挨拶するのは難しいのが現状です。だからこそ、すれ違う際にはしっかり目を見て声かけをしています。

利用者様とのエピソード

お喜びの声

日々、利用者様と交流を深めるなかで、嬉しい言葉をもったり、心温まるエピソードが生まれたりする瞬間があるでしょう。すべての人が笑顔で過ごせるように願う皆さんの行動は、利用者様に必ず届くはず。今回は、利用者様との絆を深め、人生の転機が訪れた嶋田さんのエピソードを紹介します。



特別養護老人ホーム
悠優かしま

しまだ ようすけ

嶋田 陽介さん



利用者様と接するうえで意識していること

“些細な変化もご家族様へ報告”

ご家族様と同じ目線で接することを大事にしています。いつもとは違う、と気づいたことがあればすぐにご家族様へ報告するのもその1つ。もし自分の家族であれば、知っておきたいと思うはず。これは特別に意識していることではありません。**ただ自分が身内だったらどうしてほしいか**、を考えています。そして、常に自然体でいることが私のスタイルです。

今後の意気込み

15年の経験を活かし、信頼関係を築く介護職としての新たな挑戦

介護職について15年。念願の資格取得を目指しつつ、今後も自分なりのスタイルで利用者様との信頼関係を築いていきたいと思っています。そして、体力の続く限り、仕事に邁進していく所存です。

嬉しかったエピソード

“利用者様がつないでくれた生涯の伴侶”

私が「コミュニティハウス悠優かしま」に在籍していたとき、男性の利用者様から、「あなたなら信頼できる。孫を紹介したい」と言われました。ご家族の方はよく面会に来ていたため、そこでお孫さんと初対面。そして、その人は今、私の妻です!

利用者様が大切なご家族を紹介したいと思えるほど、信頼を得られていたことを非常に嬉しく思いました。もしかすると、利用者様も当初は半分本気で半分冗談だったかもしれませんが。ただ私は利用者様やご家族様と接する際には、あまり他人行儀にならず、親近感を持っていただけるように心がけています。また、**気を遣わずにリラックスできる存在**であることを大切にしています。だからこそ、妻と巡り合うことができたのでしょう。利用者様に結婚の報告をした際には、本当に喜んでくれました。